

法務省「社会を明るくする運動」とは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

光栄なことに、今日の放送は、新しく CRT 栃木放送の社長になられました竹澤一雄様に一緒に聞いていただいております。社長、ありがとうございます。緊張します。CRT 栃木放送は、新しい社長の下でこれからも頑張っていたきたいと思います。また、放送をお聴きの皆様も、竹澤社長はじめ CRT 栃木放送の皆様を応援していただければ有難いと思います。

2. さて、昨日は、台風が日本を襲いました。栃木県にも来るのではないかと心配しましたが、北関東は無事でよかったですと思います。ただ、他の地方の方は大変な思いをなさったかと思います。土石流で大きな被害に遭われた方には、心よりお見舞いを申し上げます。

3. 7月になり、法務省で「社会を明るくする運動」が始まりました。これは、犯罪を少しでも少なくする、また、犯罪を犯した方の社会復帰をどうやって促進するかという運動だと思います。私は、大学の時に犯罪を犯した方の社会復帰をどうするかという刑事政策の勉強をしましたので、これには非常に強い関心を持っています。

4. 7月4日の産経新聞を読んでいましたら、素晴らしい投書が載っていました。「社会のマナーを教えるのは誰か」という内容で、神戸市の西区にお住まいの方が投書したものです。私は、その文章を読んで非常に感銘を受けました。感銘を受けたというか、問題意識を持ちましたので、紹介させていただきます。要約すると、「先日娘さんと外出すると、小学校3・4年生ぐらいの児童と先生の集団に出会った。校外学習らしく子供達は手にノートを持っていたが、よそ見をしたり後ろ向きになったりして雑然と歩いていた。集団の後ろのほうには若い男の先生がいたが、『並んで歩きなさい』と注意もしないし、周囲を歩く人たちに気を遣うそぶりもない。うっかり子供とぶつかって転倒して怪我でもしたら大変だ。『危ないよ』と娘に言われて、しかたなく子供達が通り過ぎるまでその場に立ち止まっていた。一方で、近くにある大手の学習塾では、送迎バスを待つ間に子供達を歩道の片側に並ばせて、通行人の邪魔にならないように『ちゃんとしなさい』と注意している。学校で教えない社会のルールやマナーを、塾をはじめとする様々な社会の方がきちんと教えている」という内容でした。

5. 学校には、この若い男の先生のような方もいらっしゃると思いますが、大半の先生方はマナーやルールをきちんと教えてくださっていると思います。ただ、学校の先生方が気が付かないことを社会で補うこと、つまり、学習塾はもとより社会の皆様にも補っていただいて、子供達の健全な育成を図ることが大事だと思います。社会のマナーやルールを教えるのは学校の役割でもあります、家庭教育が一番大事ですから、家庭で教えていただきたいと思います。また、様々な社会教育の場でも教えていただきたいと思います。例えば、子供達はサッカー教室やバドミントン教室、音楽教室など色々なところで勉強していますので、そこの先生やお近くの方々に気が付いたことを教えていただく、これが社会を明るくする運動で大事なことだと思います。
6. それから、実際に犯罪を犯して捜査を受け、起訴され、裁判で有罪になって刑務所や矯正施設に入られる方もたくさんいますので、そういう方をどうやって社会が受け入れるかということも大事だと思います。開倫塾は、栃木刑務所から依頼されて、数名の先生方が学習指導のためにそこに何年間か行っています。私も年に何回か、受刑者の皆様の前で「ここでしっかりと勉強してから社会に出て、立派に更生を果たしてください」というお願いをしています。
7. 一度犯罪を犯した方は、そのこと自体は非常によくはないことですが、捜査を受けている間に警察の方、特に刑事の方に色々なことを教えて貰ったり、その後に送られる検察庁では検事の方に世の中の道などを教えて貰ったりします。色々な方々から「こういうことはやってはいけない」「ちゃんと悔い改めなさい」ということを言われて、裁判になるわけです。裁判官もかなり教育的な配慮をして、罪を犯した方に色々なことを教えてくださっています。それに加えて、実際に刑務所に行くと、そこにいらっしゃる刑務官の方が、本当に悔い改めなさいということで、最初は反省することを教えてくださいます。そして、社会に出る時間がだんだん迫ってくると、社会に出てからどのようにすると上手く社会復帰が果たせるかを、社会の方々の力を借りながら熱心に教育して教えてくださいます。
8. ですから、なかなか言いにくい話ですが、一度犯罪を犯した方が刑務所から出てきたときは一般の方になるわけですので、偏見を持たずに、社会人として立派に立ち立てできるように、社会のほうでも温かい目で見てくださいたいと思います。刑務所や矯正施設を出た方の中には仕事を探すのが一番難しい方もいらっしゃいますので、できれば仕事を探しているときはその機会を与えていただければ有難いです。また、社会復帰をなさった方はみんな二度と犯罪を犯したくないと思っていますので、周りの方もそういうことを考えながら生きている方もいらっしゃるのだということを理解していただければと思います。
9. 7月1日から1か月間、法務省で「社会を明るくする運動」を展開していますので、今日は、受刑者であった方々が社会に出たときに温かく迎えていただきたいというお話をさせていただきました。これから先、暑い日が続くと思いますので、どうかお体に気をつけてお過ごしください。